

各関係機関団体の長

殿

各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第7号

水稻の海外飛来性害虫(ウンカ類)の発生状況及び今後の発生予想パターンについて

トビイロウンカの過去10年間の初飛来は、大半が6月で、遅くても7月11日までには確認していますが、本年はまだ確認していません。また、ほ場でも発生を確認していません。

しかし、トビイロウンカと同じ海外飛来性害虫であるセジロウンカが6月13～15日及び7月1日にややまとまって誘殺されましたので、6月13日及び7月1日を初飛来と想定したトビイロウンカ発生予想パターン図(図1)を作成しましたので、お知らせします。

今後の防除対策を講じるにあたって、参考にして下さい。

1 作物名 水稻

2 病虫害名 海外飛来性害虫 トビイロウンカ、セジロウンカ

3 飛来状況

本年のセジロウンカは、5月14日に遠賀町の予察灯で初めて誘殺され、その後も断続的に誘殺された。6月13～15日及び7月1日はややまとまった飛来があった。

トビイロウンカについては、誘殺は確認していない。(表1)

4 ほ場での発生状況

(1) 7月2半旬の巡回調査では、トビイロウンカの10株当たり払い落とし成幼虫数は平均0頭(平年0.09頭、前年0.00頭)で、平年よりやや少なく、前年並みであった。

発生ほ場率は0%(平年4.9%、前年0.0%)で、平年より少なく、前年並みであった。

(2) セジロウンカの10株当たり払い落とし成幼虫数は平均2.8頭(平年7.5頭、前年0.5頭)で、平年より少なく前年より多かった。

発生ほ場率は58.5%(平年74.0%、前年61.1%)で、平年・前年より少なかった。

5 防除上注意すべき事項

(1) セジロウンカのほ場での発生量は平年より少ないものの、今後も飛来する恐れがあるので、注意が必要です。

<要防除水準> 飛来成虫数 6頭/株

(2) トビイロウンカの飛来量は、セジロウンカに比べて少ないが、飛来後の増殖率が極めて高いので注意が必要です。田植え時期や、地域及びほ場による発生の差が大きいため、**ほ場における発生状況を把握して、できるだけ若齢幼虫期に防除して下さい。**

また、育苗箱施薬剤が施用されたほ場でも、移植後1か月以上経過すると農薬の効果の低下に伴い増殖しやすくなるので、発生予想パターン図（図1）を参考に、適期防除を行って下さい。

＜要防除水準：中老齢幼虫の合計数＞

飛来後第1世代： 20頭／100株（7月中～下旬頃）

飛来後第2世代： 100頭／100株（8月中～下旬頃）

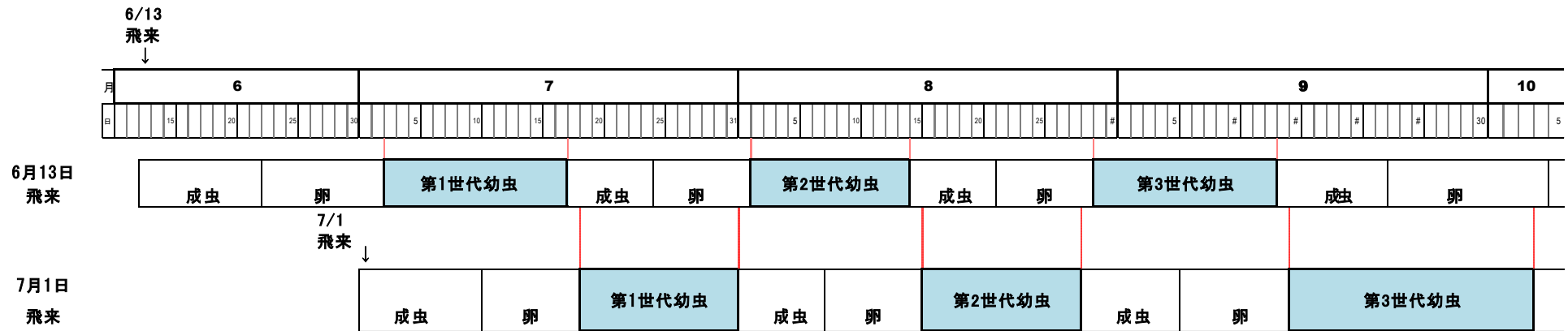
飛来後第3世代：1,000頭／100株（9月中～下旬頃）

(3) 無人ヘリコプターによる防除を、気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に気化し、防除効果が著しく低下する場合がありますので、気温が高くなる前の早朝に実施して下さい。

(4) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守して下さい。

(5) 今後の飛来状況によって、発生予想パターン図を追加することもあるので、防除所ホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>）を参照して下さい。

飛来に基づくトビイロウンカ発生予想パターン図 (平成27年7月16日作成)



(注) (1) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出。発育零点12.0℃、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、有効積算温度(成虫期間100.0℃、卵期間109.4℃、幼虫期間189.4℃)

(2) 気温はアメダス太宰府を使用

7月14日までは太宰府のアメダスの実測値。15日以降は平年値を基に作成。